

# 地歌舞伎 東濃歌舞伎中津川保存会

6月9日(土) 14:00  
キッセイ文化ホール 中ホール

[全席自由] 一般:1,500円(当日:2,000円)、18歳以下:1,000円、小学生以下:500円

「地歌舞伎」とは、その土地の人が役者となり演じる歌舞伎です。今回は岐阜県の宝ものにも指定されている、東濃歌舞伎中津川保存会の皆さんによる『壽曾我対面 工藤館の場』を上演!“見得”やセリフ、豪華な衣裳など、これぞ歌舞伎な演目です。おひねり(紙に小銭を包んだもの)を役者が見得を決めたときにはみんなで舞台上に投げ込んでみよう! ★上演演目『壽曾我対面 工藤館の場』



## 壽曾我対面 工藤館の場

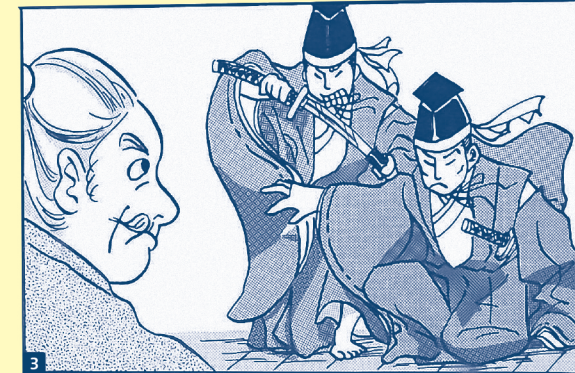
1 曾我十郎祐成と五郎時致の兄弟の父・河津三郎祐泰は、領地争いが原因で工藤左衛門祐経に討たれました。

2 時は経ち、工藤の館。梶原父子や小林朝比奈といった諸大名らが、大役である富士の裾野の巻狩りの総奉行に任命された祝席に訪れており、工藤は大磯の虎、化粧坂の少将に囲まれています。

3 朝比奈が、工藤に紹介したい若者がいると、兄弟を呼び込みます。工藤は盃をやりますが、血気にはやった五郎は、工藤に父の敵として討たれるよう迫ります。工藤は、源氏の宝刀・友切丸が手に入らないうちは曾我兄弟の家の再興はならず敵討ちにならないと言いますが、兄弟の家来が持って駆けつけます。

4 そうして、工藤は巻狩りを無事に勤めた後に討たれることを約束し、二人に狩場の切手(通行証)を贈るのです。

- 曾我十郎祐成：主人公・曾我兄弟の兄。通称、曾我十郎。
- 曾我五郎時致：主人公・曾我兄弟の弟。通称、曾我五郎。
- 工藤左衛門祐経：源頼朝に大役を命じられた。曾我兄弟の父を殺した張本人。
- 大磯の虎：鎌倉一の遊郭の遊女。実は曾我十郎の恋人。
- 化粧坂の少将：実は曾我五郎の恋人。少将とは、平安時代から江戸時代にかけてみられる女官の通称。



# ひろしま安芸高田神楽 桑田天使神楽団

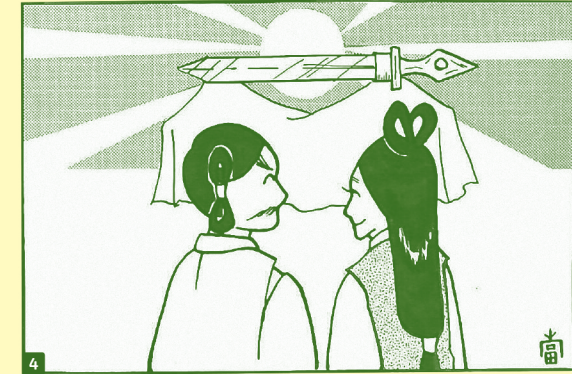
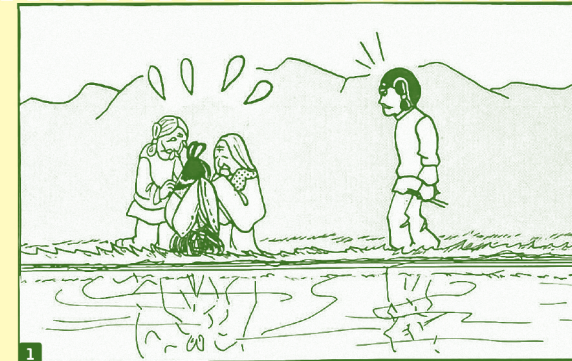
6月10日(日) 15:00  
キッセイ文化ホール 中ホール

[全席自由] 一般:1,500円(当日:2,000円)、18歳以下:1,000円、小学生以下:500円

「神楽」は、日本の古い物語を心揺さぶる音楽と迫力のある舞と演技でみせる日本に古くから伝わる芸能です。22の神楽団が伝統を保存継承している活動の盛んな広島県安芸高田市から「ひろしま安芸高田神楽」の桑田天使神楽団による公演です。エンターテインメントに富んだ演目は見逃せません! ★上演演目『神迎え(儀式舞)』『紅葉狩』『八岐大蛇』



## 八岐大蛇



1 高天原を追放された須佐之男命は、出雲の鳥上の地にたどり着きます。斐伊川の上流に向かい歩いていると老夫婦と奇稲田姫に出会います。

2 老夫婦は、毎年娘を一人ずつ、八岐大蛇に呑み取られ、今年最後の娘、奇稲田姫を献上しなければならないと嘆き、須佐之男命に助けを求めます。須佐之男命は、奇稲田姫を自分の妻にできるのであればと、大蛇退治に乗り出します。

3 須佐之男命は老夫婦に毒酒を盛った八つの酒槽を作らせ大蛇の襲来を待ち受けます。やってきた大蛇は案の定、酒を飲んで酔い伏します。須佐之男命は今こそと十束剣を抜き、大格闘の末、大蛇を退治します。

4 切り裂いた大蛇からひとふりの宝剣が現れ、これを天叢雲剣と名付け、高天原に献上します。その後、須佐之男命はめでたく奇稲田姫を妻にするのです。

- 須佐之男命：日本神話に登場する男性の神様。姉は天照大神。高天原に立寄った際、乱暴をおこない追放された。
- 奇稲田姫：日本神話に登場する女性の神様。
- 八岐大蛇：日本神話に登場する怪物で、八つの頭、八つの尾の大蛇。